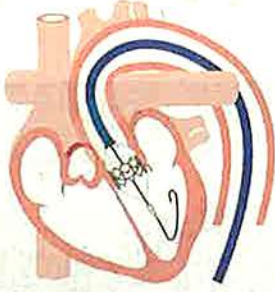


大動脈弁狭窄症 手術の負担軽減

カテーテルで人工弁を設置

豊橋市にある心臓病専門病院「豊橋ハートセンター」（鈴木孝彦院長）は、正常に機能しなくなった心臓の大動脈弁を治療するため、胸を切開せずカテーテル（細い管）を使って人工弁を運び、悪くなった弁と置き換える最新治療法「経カテーテル大動脈弁留置術」（TAVI）をスタートさせたことを発表した。この治療法を取り入れた医療機関は国内で21か所目、県内では初という。（榊原宗一）



カテーテルを心臓に通し人工弁を設置する手術の模式図

豊橋ハートセンター

「大動脈弁狭窄症」と呼ばれる心臓の病気が、国内で約60万人の患者がいるといわれ、年間1万人が手術を受ける。全身に血液を送り出す大動脈

の弁に付着物がこびりつき、硬くなって十分に開かず、血液の流れが悪くなる。重症化すると安静時にも息切れがし、突然死することもある。

高齢になって発症するケースが大半で、年々患者数が増加しているという。完治には胸を切り開いて人工弁に取り換えるしかなかったが、長時間の大手術に耐える体力がない患者も多く、その場合は薬で対症療法を行うしかなかった。

TAVIは太ももの付

症例を検討する山本医師（左）らのチーム



門医らで組織する経カテーテルの大動脈弁置換術関連学会協議会が認定した医療機関だけで実施でき、同センターは今年1月、当時は中部地方初、国内21番目の医療機関として認定され、これまでに21件の手術を行った。県内で認定されているのは同センターだけだ。同センターでは循環器内科、心臓血管外科の医師ら十数人がチームをつくり、高齢の重症患者に実施している。チームリーダーの山本真功医師（36）（循環器内科）は「正しい理解を広め、浸透させていきたい」と話している。

け根や肋骨の間に小さな穴を開けて太さ数ミリのカテーテルを通し、牛や豚の心臓を覆う膜で作った人工弁を心臓まで運ぶ。人工弁は直後から動き始め、患者の生活の質が劇的に改善されるという。ただ世界でも始まって日が浅く、5年以上の長期耐久性の臨床データがないといった課題もある。

手術は2〜4時間です。同手術法は2013年10月に日本に導入された。専

同協議会代表委員を務める澤芳樹・大阪大学医学部心臓血管外科教授は「体の負担が少ないことから、高齢でリスクの高い患者を中心に拡大していくと思う。ただ、耐久性の検証はこれからの課題で、安全を確かめながら普及させていく必要がある」と話している。問い合わせ先は同センター（0532・37・3377）。